

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所としての理念はできている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全員が理念を理解し共有できていないと思う。	勉強会や話し合いでの意識の向上を図っていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	来園した家族にも分かるように玄関に理念を設置している。しかし、地域への取り組みはできていないと思う。	新聞を配布するなど、地域の人々への働きかけをしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方がご自身で作られた作品を持ってきていただいたり、相談に来られたり少しづつは交流を持てるようになってきている。	○ 近隣自治会へ向けての新聞などを配布するなど、地域の人々への働きかけをしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	積極的にはできていないが、踊りなどの慰問がある。	○ 通勤時や外出時に地域の方と会えば、常に挨拶を心がけ地域の人と交流を図っていこうと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	クリスマス前には園内の庭や外壁などにイルミネーションを飾り、利用者や地域の人に季節感を味わい楽しんでいただけている。地域の人も見に来られる。	○	今後もクリスマスのイルミネーションは続け、少しでも地域奉仕活動を行なっていければと思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年の評価実施前後には意識付けができていますが、継続した改善の取り組みには生かされていないのが現状である。	○	自己評価した項目、また評価された項目を基に会議で話し合いを続け、一つずつ改善していくよう取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに運営推進会議を開催し、活動報告、事故発生状況、苦情報告などをし質疑応答を行い、改善できることは改善している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターの依頼で職員の施設見学を受け入れたり、書類提出など訪問時には相談などを行なっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全員が知識として習得できていない。制度の勉強会も行っていない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員全体会議で注意指導を受けたり、ユニット会議で話し合ったりしているが、虐待を正しく理解し防止できているとはいいいがたいところも見受けられる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族に対し契約時に重要事項について、十分な時間をとり、説明対応している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>特別な機会は設けていないが、外部からの調査員や家族からの意見は傾聴し運営に反映しようとしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月手紙を書き、身体・食事・排泄・入浴状況や精神面などの状態を伝えている。また、金銭報告も書面で行なっている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の意見を傾聴し運営に反映しようとしている。苦情に関しては書類に記載し改善に努めている。運営推進会議などで報告を行っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者が常に個々の意見を傾聴し対応説明を行っている。その後運営者に方向を行っている。毎月の職員会議においては運営者に直接傾聴してもらっている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>できる限り必要な時間帯に余裕を持った職員配置をし柔軟に対応したいが、十分にはできていないのが現状である。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者の方針は全職員がユニットを越えて、全入居者の対応ができことを望んでおり施設内での異動は多い。その場合、利用者へのダメージは考慮されていないと思う。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勉強会や研修の資料は常に提示しているが、個々の受講意識は低い。強制的に受講させることもできず、日々の職務の中で技術や知識を高めていく指導を行っているが、不十分である。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同グループ内でのネットワークや勉強会はあるが、他事業者の同業者との交流機会はない。個人的な交流はあるがネットワークや質の向上に反映はされていない。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスの傾聴は行っているつもりであるが軽減できているかどうかは定かではない。環境づくりには取り組めていないといったほうが正しいであろう。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員個々の努力や実績は把握するように努め、言葉での評価や励ましはしているつもりであるが、目に見えた評価はできているかどうか定かではない。そのため本人の向上心につながっているかも疑問な点が多々ある。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>関係者から相談を受け、本人の利用に至るまで、何度か本人に面会し話をするが、本人から求めていることを引き出すことは難しい。</p>	<p>○ 面会を継続し、できるだけ引き出せるように努力は続けていく。また、入居しても継続して日常的な会話の中から汲み取れるように努力する。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>関係者から相談を受け、本人の利用に至るまでに、家族なども面会し話を聞いている。求めていることを入居に提供できるように職員に伝達している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の必要な支援を探る努力はしている。また、支援に必要なことを家族などに対して提案している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来れば入居前に本人と家族に見学に来ていただき、職員や他利用者や場の雰囲気に少しでも馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員によって異なる。できている者もいれば、一方的な介護をしている者もいるが、一緒に過ごし本人から学び、支えあう関係となるよう日々努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には来園時や手紙で情報を伝え、入園しても一緒に支えていく気持ちを持っていただけるよう、常に信頼関係を築くように努めている。	○	家族が来園時には会話をし、信頼関係を築いていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には家族と会話するように努め、家族の意向をくみ、できるだけ良い関係が築けるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今はできていない。	○	知り合いの方にも面会をお願いしたり、こられない時にはその方に承諾を得るなどして、近況を利用者に知らせていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりが孤立しないように、利用者同士で気の合いそうな方と近くの席にしたり、本人の意向を汲んだり、良い関わり合いができ支え合えるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設へ移った方は、施設側からその後の様子を聞いたり、面会に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月行っている。アセスメントで本人の希望や意向があれば取り上げ検討し実施している。希望や意向が読み取り難い方は職員全員が意見を出し合い検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントに管理者が出席し、本人の生活歴の把握に努め、必要な情報は職員と共有するようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の援助を通して知り得た情報・意見を毎月の会議で出し合い、全員が現状を総合的に把握できるようにしている。緊急を要する場合は申送りで全員に伝達している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の会議で各々が情報を持ちより全員で相談し介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	体調に変化などがある場合は、様子を見ながら話し合いを行い介護計画を変更している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別の記録は、介護記録、排泄表、バイタルサイン表、受診記録などに記入している。また、記録は毎月の会議での介護計画の更新、見直しに活かされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望はその都度、できる限り応じるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察や消防には協力要請はしてはいるものの、地域資源を活用し切れていないのが現状である。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの活用した支援は行っていない。定期的に同グループのケアマネジャーおよびソーシャルワーカーとは会議を持ちたり、その都度連携をとって支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特には行っていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけの病院名や主治医を職員全員が把握できるようにしている。日中、夜間、特変時の連絡先を明確にし、職員が素早く対応できるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ専門医の受診をし治療を行っている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設内看護師およびかかりつけの病院の看護師などに気軽に相談し指導、支援してもらっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院した場合は病院と連絡をとり、情報交換や相談はできている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い時点で家族や医療機関の医師などと話をして方針を決めている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	病状の重度化や終末期に関しては医師と相談し最善を尽くす努力をしている。認知症の重度化に対しては、本人のできることを見極めできないことのみを支援し、本人の能力を取り上げない努力をしている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居される場合は転居先の施設の方や、家族に来園してもらいできるだけ情報を提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	申し送り、情報伝達時に入居者のいない場所で行なったり、どうしても入居者のいる前で話さなければいけない場合には、名前をアルファベットで伝えたりしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者との関わりを多く持ち、信頼関係を築き何気ない会話から、話し方、表情など見逃さないようにしている。簡単な言葉やわかりやすい言葉を使って話をするようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室にこもることのないよう気を配りながら本人が興味のあることなど、不快にならず楽しく規則正しい生活を送っていたるように、職員間で情報交換を頻回に行なっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時は洗面所に誘導し洗顔や整髪を会話しながら促している。鏡の前で衣服を整えていただいている。月に一度散髪の日を設け希望者は利用してもらっている。服や髪型の変化に気づき誉めるようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	気の合う仲間を同じテーブルに座ってもらい会話が弾むようにしている。コミュニケーションの取り難い入居者の方には、職員が横に座り、かけ橋をしている。配膳、下膳、食器洗い、膳拭きなどその方の生活機能に合わせて行なってもらっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族に依頼し持参していただき、入居者が希望する時に食べていただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、排泄間隔を把握して定期的なトイレ誘導を行なっている。入居者のプライドを傷つけないような声かけ誘導を工夫し、さりげなく失禁のチェックを行なっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低でも週2回の入浴ができるように曜日の設定はされているが、入居者の精神状態、体調、希望を優先し、その都度職員を変えたり無理のない入浴を行なっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	できるだけその方の行動パターンを把握し、安眠や休息の援助をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯、掃除、炊事など入居者ができることや、やりたい事を手伝ってもらっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在ではお金を個人で持つてはいない。忘れたり、紛失するなどトラブルの原因になるため施設で管理している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩などは職員と一緒に出かけるが、遠くの外出になると家族に依頼している。	○	月に1回買い物の日を決め、職員は希望者と買い物に行き買い物を楽しんでもらう。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	施設側は季節ごとに外出レクリエーションを行い、出かける機会を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	食堂ホールに電話を設置し、希望時には対応を行なっている。郵便物が届いた時は、本人立会いの上開封し、必要があれば管理している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会があれば積極的に交流を持ち、再来しやすいように心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険性の高いやむをえない理由がない限り、職員の見守り強化や配置の工夫に努めている。	○	やむを得ず身体拘束を行なう場合には、その対応および拘束時間、その際の入居者の心身状況ならびに緊急やむをえない理由を家族等に説明し了解を得る。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設敷地内は自由に出入りできるよう施錠せず、職員が見守り、付き添いを行なっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者が不在の場合は了解を得て居室に訪問を行なう。入居者が居室にいる時は必ずノックを行なって訪室する。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は、入居者の手が届かない見えない所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員一人ひとりがヒヤリハット報告を書くことを意識し、お互いに注意しあって事故防止に努めている。	○	毎月のカンファレンス、ユニット会議の際に検討を行なう。ヒヤリハット、インシデント、事故報告書を確認し再発防止に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルをつくり、初動の話し合いはできているが、訓練は定期的に行っておらず、全ての職員ができるとはいえない。	○	毎月のカンファレンス、ユニット会議の際に入居者の情報交換を行い必要な訓練を行なう。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を行い、もしもの時に適切な判断ができるようにしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族には、残存機能に重視し働きかけることや、筋力低下の防止、機能の後退の防止などのために行なっていることを話し、その時に生じる危険性を説明し理解していただけるようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝夕2回のバイタルサイン測定を行い、その時に会話しながら身体の観察をし体調変化の確認を行ない状態の記録を行なっている。申し送りノートに入居者の状態、注意事項を記入し細かく申し送っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書などをファイルし目的、副作用を常に確認している。服薬時にも拒否せずスムーズに飲んでいただけるように工夫している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	レクリエーション時に運動や体操を取り入れ、気分転換も兼ねて散歩を促したり会話をしながらお茶を飲んでいただくようにしている。	○	排便を促すのに良いおやつを工夫する。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後無理なく洗面所への誘導や声かけを行い、自分でできるところまで口腔ケアをしていただいた後、できていない所は口腔内を確認しながら職員が介助を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を個人記録に記入し把握している。お盆に滑り止めマットを使用したり、スプーンや箸の使い分けをしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	掃除の際は次亜塩素酸系薬剤で消毒を行なっている。玄関や洗面所にすり込み式手指消毒剤を設置して来訪者にも手の消毒をしてもらっている。トイレ介助時の手袋使用、洗濯物をハイターで除菌なども行なっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具の消毒、手洗いはこまめに行っている。職員一人ひとりが気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家具、植物など配置を考え親しみやすさを配慮している。玄関周りに草花を植えたり家庭的な雰囲気である。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はいつも清潔に保ち、季節に合わせた飾り付けや入居者の作品を展示している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはテーブルや椅子、畳の間を用意し、中央には床暖房を設置している。他ユニットの入居者とも交流が持てるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具を持ってきてもらうようにしている。配置も本人の意向を取り入れ、安全かつ使用しやすいように工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、清掃時には窓を開放し換気を行なっている。各居室にエアコンを設け、各自温度調整ができるようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、脱衣所には手すりを設置している。浴槽内や浴室には滑り止めマットやバスマグリップを使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室ドアには本人にわかるように名前を貼っている。持ち物には総て名前を記入し自分で確認できるようにしている。湯飲みや箸は共同使用することなく個人の物を用意している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には芝生を敷き転倒時の安全対策をしている。畑を作り花や野菜を植えたりしている。季節や行事ごとの飾り付けを行い楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input checked="" type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

できるだけ入居者本位の介護を目指しており指導に取り組んでいる。ただ、現段階ではまだまだといえる。家族とのコミュニケーションにも力をいれ、面会時などは積極的に交流するように心がけている。